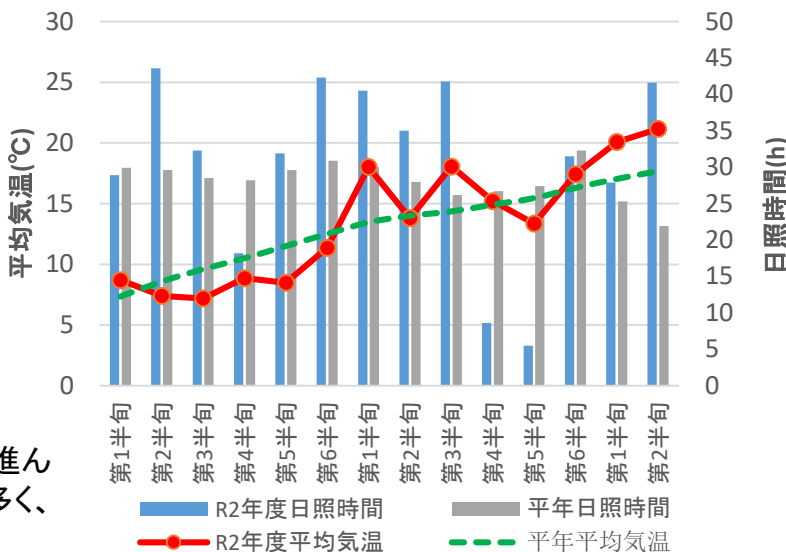


- ◆ **現在、生育は平年に比べ2日程度進んでいます！**
- ◆ **目標茎数(18本/株)が確保できたら、速やかに間断かん水へ移行し、生育に合わせた水管理に努めましょう！**

○気象の推移

5月は第3半旬まで高温多照に推移し、第5半旬は低温寡少となりましたが、6月から再び高温多照で推移しています。5～6月上旬は平年よりも1.7℃平均気温が高くなりました。関東甲信地方の梅雨入りは6月11日で平年より3日遅く、昨年より4日遅くなりました(参考:梅雨明けは平年は7月21日、昨年7月24日)。

R2年度 気象の推移(今市観測点)



○水稲生育状況

(生育診断ほ調査結果6月8日)

日光市鹿沼市ともに葉齢が進み、生育が進んでいます。県内平均値は、平年より茎数は多く、葉齢は平年並。葉色はやや淡い状況です。

<表1 生育診断ほ調査結果(6月8日調査)>

	移植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	生育診断値※ (葉色×茎数)
			(本/株)	(本/m ²)			
日光市木和田島	5/4	42	34	649	9.3	4.2	2725
鹿沼市久野	5/4	35	15	276	8.6	3.8	1050
県内平均値	5/5	37	22	405	8.2	4.1	1669
県内平年値	—	34	20	373	8.2	4.3	1620

※ 生育診断基準値:1,900~2,200(県北部)、2,100~2,450(県南部)



○今後の技術対策

✓ **間断かん水へ！**

5月上旬移植の水田は、**茎数18本/株**を目安に、間断かん水へ移行し、太い茎を作りましょう！ただし、茎数が確保されていないほ場では、引き続き、夜間かん水、日中止水(浅水)とし、分けつを促進しましょう。茎数が多すぎるほ場は、中干しや落水期間を長めにした間断かん水を行いましょう。



【写真1 生育診断ほ(日光市木和田島)】
※株調査(茎数34本)、6/8撮影



【写真2 生育診断ほ(鹿沼市久野)】
※株調査(茎数15本)、6/8撮影

✓ **病害虫対策も早めに！**

イネ縞葉枯病について、防除の徹底に努めましょう。

葉いもちは、梅雨に入った6月から発生が多くなります。山間の日照が短く稲体が軟弱となりやすいところや、常発地、箱施用剤を使用していないほ場では、注意しましょう。また、**取り置き苗は、いもち病の発生源になるので、早急に処分しましょう。**